

SC-2. キューは握らない

“Don't grip your cue” by Lary Faris

横浜シャフルボード協会

抄訳：薩川俊三

シャフラーがしばしば私に尋ねる「キューはどのように握るのですか?」。皆さんはゴルフのクラブ、テニスのラケット、野球のバットの適切な握り方の写真を見ている。当然、シャフルボードのキューの最も良い握り方を知りたいと思っている。私の答は、「キューを出来るだけ小さく握りなさい」だ。この表現は少し分かりにくいと思うので、それについて説明する。

キューと手との連結部が回転の接点だ。腕とキューの角度は、バックスイングからフォロースルーにかけて殆ど180度変化するので、連結はゆるくて、固定されていないことが必要だ。必要な回転をさせるため、キューを非常に軽く持たなければならない。それによって、キューの末端のグリップが、非常にゆるく持っている指先で、滑ることができる。

シュートする前に、エキスパートのプレーヤーは、腕を身体の横に、非常に自然でくつろいで保つ。キューのグリップは、僅かに曲げた人さし指の上に載っているだけだ。中指をもう少し深く曲げて、指の側面をグリップの端面に押付ける。これが押す接点で、キューを前方に動かす力を伝える。最後に、親指をごく自然に、人さし指の反対側のグリップ側面に添える。この親指は、人さし指と中指でゆるく持っているキューが落下しないようにするだけだ。

シュートしている時、キューグリップは、非常にゆるく持っている指の間で軽やかに動く。腕が伸びきったシュートの終りで、3本の指は三脚の形をして、キューがディスクの後ろを追いかけて行かないように、キューグリップを掴む。ゆるく持ち過ぎて、キューを落とすことがあるが、問題はない。

ハンドル握りはいけない。キューを自転車のハンドルを握るように、固く握ってはならない。それは指先の回転の接点を無くして、シュートをしている最中に手首をひねったり曲げたりする原因になる。

(訳者注：コーヒーカップを持つように、3本の指先で持つエキスパートも多い)



